

評価基準 4;適切 3;ほぼ適切 2;やや不適切 1;不適切				
1. 教育理念・目標				
担当	評価項目	令和8年 前期評価	2026（令和8年）年度前期達成状況	2026（令和8年）年度後期に取り組むべき課題等
瀬古	・教育理念等を明文化しているか。 ・教育理念等を教職員に対して周知徹底を図っているか。 ・教育理念等を公表しているか。	4	・本校ホームページ、パンフレット・学生募集要項にて公表。 ・ホームページに岩崎学園の教育システムと実践事例を公開した。 ・新入生にはオリエンテーションやホームルーム等で、保護者には学生を通して周知。 ・在校生や教職員には学生生活の手引きを岩崎学園ポータルサイト(iポータル)から配信し、周知。	・継続
	・教育目的・目標、教育計画が文書化され、提示されているか。	4	・ 教育目的・目標ならびにアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーについて、学生生活の手引き・学生募集要項で公開している。前期中にホームページでも公開を始めた。 ・ アセスメント・ポリシー検証方法をホームページ上に公表した。 ・カリキュラム、シラバスを作成し、学生に提示。 ・カリキュラムは臨床実習施設にも配布。 ・シラバスは岩崎学園のLearning Management System（学習支援システム；以下、スタログ（LMS））で時間割と共に配信し、閲覧が可能。	・ アセスメント・ポリシーの検証を年度末に実施予定 ・継続
2. 学校運営				
担当	評価項目	令和8年 前期評価	2026（令和8年）年度前期達成状況	2026（令和8年）年度後期に取り組むべき課題等
渡邊	・理事会、運営会議（教職員会議・教員会議等）が定期的に開催されているか。	4	・理事会、経営管理委員会、所属長会議等の各種学園横断会議は適宜実施されている。 ・本校では教務部会議・教務部運営会議・各学科会議・各業務会議・卒業判定会議・進級（成績）判定会議・学生募集会議、朝礼を開催している。	・継続
	・事業計画が定められているか。	4	・業務ごとに年間の業務計画を策定し、計画に基づき着実に実行した。 ・若者や社会のニーズに対する感度を高く持ち、変化を的確に捉えながら、ニーズに対応した教育サービスの創造・発信を行っている。	・継続
	・予算・収支計画は有効かつ妥当であるか。	4	・適切な予算計画が策定され、予算の範囲内で運営している。 ・稟議案件については、成果指標を設定し、達成状況を定量化・レビューしながら、教育投資を行っている。	・継続
	・就業規則等は定められているか。	4	・定められている。	・継続
	・教職員一覧表（採用年、資格、年齢、学歴等記載）はあるか。	4	・学校基本調査に合わせ年に1回更新した。	・継続
	・業務分掌は適切か。	4	・経営管理チーム、教務チームともに、期初に業務分掌を明確に定め、それぞれの役割に基づき業務を遂行している。 ・業務量の増加や育休取得者の発生など、状況の変化に応じて、各部門責任者や学科長が業務分担を見直し、適切に役割を調整している。	・継続 ・ 特定の職員に業務負担が集中しないよう、管理職が適宜業務状況を把握し、必要な支援や業務調整を行う。また、業務の属人化・固定化を防ぐため、職員一人ひとりが担当領域を広げ、スキルや役割の拡張を図る。
	・人事考課は制度化されているか。	4	・人事考課を夏季賞与時に実施し、学園本部に提出した。 ・学園全体の等級・職位、期待役割が明確となっており、基準に基づいた人事考課が実施されている。	・継続 ・人事考課は冬期賞与の支給時期に実施予定。 ・ 時代の変化に対応するため、職員の教育・キャリアアップ（自己研鑽）を推進する。 管理職は、中長期的な人材育成計画のもと、FD研修や個々の職員に必要な学会・研修への参加を業務の一環として位置付け、計画的な人材育成を推進する。 ・ 特に後期は、全職員がキャリアアップ支援制度を活用し、自身の能力・専門性の向上に取り組む。
	・出退勤が適切に管理されているか。	4	・勤怠管理システム「KING OF TIME」により適切な管理がなされている。 また、上司・所属長による勤怠管理が徹底されている。	・継続 ・職員の多様な働き方を尊重し、ワークライフバランスの実現を推進する。 管理職は、振替休日の確実な取得や、年末年始等における計画的な有給休暇の取得を推奨し、職員が休暇を取得しやすい職場環境づくりに取り組む。
	・公印が管理されているか。	4	・「公印簿」に記載し、管理している。	・継続
	・教職員の健康診断を実施しているか。	4	・健康診断は2026年4月に実施した。 ・学園全体で定期的に衛生委員会が開催され、職員の健康確保に向けた調査審議が実施されている	・12月に職員を対象としたストレスチェックを実施予定
シラバ	・情報システム化等により業務の効率化が図られているか。	3	・Slackやグループウェア等を有効活用し、オープンな情報共有と業務の効率化を進めている。また、学生募集、教務、学籍管理等においても、データの可視化・分析を行い、問題の要因分析や課題の特定、改善策の検討に活用している。 ・ 世代や年齢にかかわらず、全職員が生成AIやITツールを業務で活用できるよう、職員のスキルアップとデジタルリテラシーの向上を図ることが、今後の継続的な課題。	・継続
	・シラバスのとりまとめと学生への周知はできたか。 ・シラバスの活用方法について情報を収集し、検討したか。	4	・スタログ（LMS）を主要なプラットフォームとしてシラバスの電子配信を完了した。また、iポータル、SlackやGoogle Workspaceなどの複数のデジタルツールを組み合わせ、ホームルーム情報、演習フィードバック、学内実習資料等の補完的な情報提供を実施し、シラバス内容の理解促進を支援した。 ・科目担当教員および担任が学生に対し、シラバスの内容と活用方法について周知・指導を徹底した。	・ 第三者評価（リハビリテーション教育評価機構）受審結果に対応し、必要に応じて次年度に向けシラバスの内容を見直す。 ・スタログ（LMS）によるシラバス公開を安定的かつ恒常的に継続し、教育の透明性と質の維持・向上を図る。
	・修業年限を通じた教育目標と一貫性を持つカリキュラム（科目構成、総単位数、授業時間数等）が適切に文書化・公開されているか。	4	・ 2026年度入学生においては、基礎分野授業の削減等を行い、理学療法学科136単位、作業療法学科は134単位（指定規則101単位を充足）を修得単位数として設定した。 本単位構成を含む教育課程、授業時限数、学則については、所管の神奈川県厚生労働局へ認可・届出の手続きを完了している。	・ カリキュラム部分改訂の効果（専門性の強化、科目間の連携、教務負担の適正化等）を多角的に検証する。 また、検証結果を基に、定量・定性的に評価し、次期改訂の検討材料とする。
シラバ	・カリキュラムは事前に学生に周知しているか。	4	・入学生には、入学時オリエンテーションにて説明を行った。 ・在校生にはスタログ（LMS）で周知した。	・特になし

田中	ハス・カリキュラム	・高校生の学力、生活習慣、学習意欲等の現状を多角的に継続して把握・分析し、カリキュラムや導入教育に適切に反映し、教育効果の向上を図っているか。	4	・オープンキャンパスにおける体験授業や高校での出張授業等を通して、高校生の専門分野への関心度や基礎学力の現状を直接的に把握している。 ・入学試験時の個別面接で、生活習慣、学習習慣、社会適応力に関する情報を聴取し、その結果を学習支援(補習・導入教育)の必要性としてカリキュラムに反映させている。 ・教職員3名が県立高校3校(金沢総合、金井、南陵)において学校評議委員等を務め、高校の教育体制や最新の生徒実情に関する継続的かつ公的な情報収集ルートを確立している。	・ 2027年度入学予定者に対し、入学前教育プログラムを実施 し、早期休学・退学者防止及び基礎学力の定着状況(受講状況、課題提出状況)を把握し、入学後の指導計画に役立てる準備を計画している。また、全5回のプレップゼミにて、参加態度・状況から学生の特性を早めに把握し、学科内で共有する。
		・関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	4	・「学校関係者評価委員会」および「教育課程編成委員会」にて、情報を収集した。 ・関連分野の非常勤講師と意見交換を実施した。	・ 引き続き、関連分野の企業等を含めて、情報収集を実施する。 ・夏期の臨床実習訪問等で聴取した学生状況を踏まえ、次年度の手引き作成に生かす。
		・社会のニーズや学生の質に合わせたカリキュラムの見直しができたか。	4	・5年ごとに実施される指定規則改定に向け、新カリキュラムにて運営している学年(2020年度1年生)から情報収集を行っている。「学生募集」の観点から、一部カリキュラムの変更・追加などを行った。	・指定規則改定を鑑みながら、引き続き社会のニーズや学生の質にあわせて新しいカリキュラムの内容について検討する。
		・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか。	4	・スタログ(LMS)でのシラバスに記載し、学生へ周知している。	・特になし
杉山	教育力向上	・教員の採用について、専門性確保の観点から基準が設けられているか。	4	・学歴、業務経験等、担当科目により基準を設けている。	・引き続き同様の方針で実施する。
		・授業スキルの向上のため、校内職員研修会を充実させ、組織として「確かな学力」、「考える力」を育成するための授業づくりを推進し、学生への指導スキルの向上を目指したか。 ・学生による授業評価(授業アンケート)の結果において、授業に対する積極性の向上は見られたか。 ・授業アンケート結果を受け授業の見直しを行ったか。 ・授業アンケートの活用方法について情報収集を行ったか。	4	・ 6/22～7/10の期間、授業の質向上および教員の指導力向上を目的として、常勤講師の講義を対象に授業見学を実施した。教員間のノウハウ共有と組織的な教育力の強化を図った。 ・ 前期授業アンケートはスタログ(LMS)を使用し、中間を5/25～6/5、終了後6/29～7/10に実施した。回収率は中間98.7%、終了後98.3%であった。前年度と比べ回収率の向上が認められた。 集計結果は、教員がすべての教科を確認できるため、全体の傾向を把握、そのうえで、中間結果を踏まえて非常勤講師を含め、担当教員から学生へフィードバックが行われた。	・ 授業見学を引き続き行う。後期は非常勤科目も含めて実施する。 ・授業アンケートは、半期ごとに2回実施予定であり、非常勤講師を含め、担当教員が自身で結果を確認し、学生へのフィードバックを行う。終了後のアンケート回答率を上げるため、担任からの促しを増やす。 ・前後期ともにアンケート後に授業内で学生にフィードバックを実施する。 ・回収率を上げるために、後期は更なる学生への周知に加え、その方法について再検討する。
		・教員の指導力向上のための研修会の開催や外部機関での研修参加を促進することができたか。	4	・ 前期の研修会として、6/26にASKPlus担当者による「ASKPlus1回目の報告会」を実施し、学生の個別対応の参考にした。	・ 後期に実施するASKPlus2回目の報告会は、早期に開催し、後期の学生指導に生かす。受験後にASKPlus担当者による「ASKPlus2回目の報告会」を実施する。 ・3月に外部講師による勉強会を実施する。 ・研修会・学会については、引き続き、参加や発表を促す。
		・非常勤講師との定期的な情報の共有を図っているか。	4	・クラス担任を中心に、非常勤講師と学生に関する情報交換を行った。特に新入生については、学生状況の把握に努めた。 ・ 非常勤講師の資料印刷や授業準備等を教員が行っており、コミュニケーションをとる機会が増加した。	・クラス担任は、継続して非常勤講師と学生に関する情報交換を行う。 ・授業準備等をサポートする機会を利用し、一層の情報交換・共有に努める。 ・ 非常勤講師MTGを2027年3月に開催予定。
石井	臨床実習	・新入教職員教育を含め、スムーズな世代交代を促す教育体制を構築しているか。	4	・新担任教員は学年のサポート業務を担いながら、メンター教員から指導を受けた。	・1年の業務内容を考慮して全体業務と担任業務を把握できるよう、引き続き学年のサポート業務を担い、メンター教員からの指導を継続する。
		・実習依頼がスムーズに行えたか。 ・必要な実習施設の確保ができたか。 ・回答結果、承諾書の集計と管理ができたか。 ・実習施設からの申請書、契約書の管理ができたか。 ・回答結果に対する公文書の送付がスムーズに行えたか。	4	・次年度の実習依頼を4月下旬に発送した。 ・実習施設の申請書などの書類のデジタル管理を進めている。また契約書(紙面)の回収・管理を行った。 ・ 2026年度4年次の実習指導者の情報収集(経験年数、指導者修了番号など)を行った。 ・実習費用のインボイス制度への対応として、請求書の発行を依頼した。 ・引き続き新規施設の確保を図る。	・ 12月に次年度の実習受け入れ人数確認文書(実習契約書を同封)の発送予定。 ・新規施設確保を継続する。 ・インボイス制度への書類の回収を継続する。
		・実習開始までに、厚労省への申請手続きが終了できたか。	4	・新規施設登録について、2027年度 PT学科が12施設、OT学科が8施設の申請を行った。	2027年度8月実習開始の新規実習施設の申請書類の準備・提出を進める。
田中	情報公開	・円滑な実習を実施できるような、指導者会議を企画・実施し、出席者数の増加や臨床教育の向上につながったか。	4	・5月末に2026年度1・2・3年次実習関連書類を発送した。 ・2026年度3年次臨床実習指導者会議を、6/27(土)にzoomにて実施した。参加率はPT学科 71.9%(51/57施設)、OT学科 70.2%(40/57施設)であった。 ・両学科にて実習指導者の情報収集について説明し、登録をお願いした。 ・ 今年度より、PT学科では新たな試みとして1・2年次臨床実習指導者会議をzoomにて実施した。出席率は、1年次71.0%、2年次66.6%であった。	・ 2027年度4年次臨床実習指導者会議は、2027/3/1(月)にzoomにて開催予定である。
		・教育活動に関する情報公開が適切になされているか。	3	・ 受験希望者および保護者に、授業を公開している。 ・各種ポリシー、カリキュラム一覧表並びに授業風景、国家試験の合格率、就職率について本校HPおよびパンフレットにて公開している。 ・ 「教育課程編成委員会」及び「学校関係者評価委員会」の議事録をHP上に随時公開している。 ・岩崎学園7校共通の授業アンケートを実施し、学園内で結果を公開しているが、外部公開には至っていない。	・ 授業公開等は、適宜実施する。 ・スタログ(LMS)を使用し、シラバス及び出席管理を行う。岩崎学園本部と連携して、より便宜性の良いものにしていく。

4. 教育成果				
担当	評価項目	令和8年 前期評価	2026(令和8年)年度前期達成状況	2026(令和8年)年度後期に取り組むべき課題等

杉山	資格	・学生全員にパラスポーツ指導員が認定されたか。	4	・ 新4年生PT学科学生のうち所定の外部実習を終了した17名の学生については、中級パラスポーツ指導員資格が認定された。その他のPT学科学生とOT学科学生の89名は初級パラスポーツ指導員資格が認定された。 ・パラスポーツ指導員（PT学科：中級、OT学科：初級）認定校の申請に基づきカリキュラムを進めた。	・障害者スポーツ大会、湘南国際マラソン大会、横浜マラソン大会、インクルーシブ水泳大会等に有志PT学科学生がボランティアで参加し、中級パラスポーツ指導員資格取得を目指す。 ・ 各種イベントを案内し、学生の主体的な参加を支援する。
	卒業研究	・卒業研究発表会において、研究の成果を質の高い形で発表できたか。 ・卒業研究発表会において、円滑な会の運営ができたか。	4	・両学科とも教員の指導を受け、卒業研究の取り組みを進めた。	・引き続き担当教員指導の下、学生が卒業研究を進める。 ・4年次の卒業研究発表会を10/16に実施。
武田	国家試験・卒業試験	・国家試験における問題解説および分析を行い、国家試験についての対策（学生オリエンテーション、特別講義など）を図る。	4	・ 国家試験対策期間（実習空き期）の学生に対して個別担当教員による面談を実施し学生の進捗を確認した。 ・ 対策期間学生のうち、選抜された学生を対象に基礎分野特別講義を行った。 また、解剖・生理・運動学を中心とした小テストを実施し、ショートステップで進捗を確認できるよう工夫した。 ・自宅で学習が捗らないと思われる学生について、生活習慣を付ける為に、登校できるよう工夫、支援を行った。	・ 過去10年分の国家試験分析結果を反映させた授業（各リテラシー）を実施する。 ・ 担当制の個別面談を継続していく。 ・各リテラシー後は小グループ制の補講を行う予定。
		・各リテラシー試験において、趣旨に沿った選考基準が策定できたか。卒業判定が適正かつ公正に実施できたか。	4	・各リテラシー試験と国家試験結果の関連などから、各リテラシー試験作成既定の振り返り・見直しを行った。 ・ 過去の国家試験の出題範囲や難易度を分析したうえで、分野の割振りや難易度を設定。その後、各リテラシー試験の作成依頼を行った。	・各リテラシー試験の作成時には、複数の教員が関わり問題の精査を行う。 ・ 正答率の低い問題を基準点から除外するなど、適正かつ公正に卒業判定を行う。
		・各リテラシー試験・実力試験において、趣旨や時期に沿った試験問題を選考・実施できたか。学生の国家試験勉強進捗の指標になったか。	4	・実力試験・業者模試において、学生が勉強した範囲の正答率が高くなっているか確認、勉強の効果判定を行った。	・試験後に解答・分野別正答率を提示し、見直しを促す。 ・面談時に分野別正答率などから、振り返りと対策の検討を行う。
田中・机	臨床実習	・「実習の手引き」等の内容を充実させ、学生のスムーズな実習領域の実現に役立つものとなったか。	4	【理学療法学科】 ・協会の作成の「臨床実習の手引 第6版」に準じて本校が作成した 手引きの構成を見直し、「臨床実習の手引き Vol 8」を作成した。実習の指導方法・ツールの使用について、説明をわかりやすく記載し、個人情報保護・ソーシャルネットワーク等の取扱いを現状に見合う内容に修正し、令和8年度から使用した。 ・ 1年次臨床実習（1W）；対象の83名全員がSSRIに0項目なし。 ・ 2年次臨床実習（地域福祉分野2W）；対象85名中1名を除く84名がSSRIに0項目なし。1名はSSRIに0項目あり、後期に対策を実施し、年度末の追加実習を検討予定。 ・ 3年次臨床実習（4W）；対象67名中4名を除く63名は期間満了し、SSRIに0項目なし。3名は、施設の就業日数の関係で1日不足であったため、10月中に同施設にて補填予定。また、1名はSSRIに0項目あり、後期に対策を実施し、年度末の追加実習を検討予定。 ・ 4年次臨床実習（8週間2施設）；臨床実習Ⅳ・Ⅴは対象73名中72名がSSRIに0項目なし。1名は、期間変更により10/15まで実習である。 【作業療法学科】 ・1年次見学実習（1日×6分野）；42名（1名昨年度単位取得済）夏期に保育園実習終了。年度末に見学実習を5領域（身体・精神・介護・就労・発達領域）実施予定。 ・ 2年次基礎実習（介護老人保健施設2W）；36名実施、35名合格（1名は保留、年度末に学内実習予定） ・ 3年次臨床実習；臨床実習Ⅰ・Ⅱ（3週間2施設）；39名のべ68施設にて実施、39名合格。 ・ 4年時臨床実習；臨床実習Ⅲ・Ⅳ（8週間2施設）Ⅰ期（4/6～5/30）・実習後OSCE（6/1）；15/33名実施。うち、1名保留。保留の1名は追加実習予定。 ・ Ⅱ期（6/8～8/1）・実習後OSCE（8/3）；26/33名実施。うち、2名保留、2名未実施。保留の2名は追加実習予定。 ・ Ⅲ期（8/10～10/3）・実習後OSCE（10/5）；16/33名実施。うち、1名保留、3名未実施。保留の1名は追加実習予定。	【理学療法学科】 ・「臨床実習の手引き」（本校作成）は随時見直しを進める。 ・ 11/1に4年生を対象に実習後OSCEを実施する。 ・ 3・4年次臨床実習における実習指導者と実習生数について、協会推奨の2:1の導入推進に向け、積極的に施設に働きかける。 【作業療法学科】 ・「臨床実習の手引き」のアップデート：「作業療法臨床実習指針」等の最新のガイドラインに準拠して見直しを進めている。「2026年度臨床実習の手引き」について、実習運営の検証結果と学生アンケートの定量的・定性的分析を反映させ、 内容の網羅性、表現の明確性、および実用性の向上を図り、次年度の実習開始までに確定させる。 ・臨床実習におけるDXの推進と連携体制の確立：「MTDLP推進強化校」の強みを活かし、臨床実習におけるDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する。具体的には、LMS等のデジタルツールを活用した実習の進捗状況のリアルタイムでの「見える化」、評価基準の共有、および臨床実習施設とのシームレスな情報連携体制を確立する。
		・臨床実習後の症例発表とグループディスカッションを通して、実習の振り返りや理学療法士・作業療法士としての今後の課題を学生自ら明確にしたか。	4	【理学療法学科】 ・ 4年次臨床実習後はセミナーにおいて、少人数のグループにて実習報告を実施し、実習の振り返りを行った。 【作業療法学科】 ・ MTDLプレジュメによる事例報告・作業療法介入OSCEを各期の終了後にセミナーとして実施した。各回、教員及び臨床の作業療法士アドバイザーに参加してもらった。今年度から各期セミナー後に卒業生を及び実習施設指導者を対象としたMTDLプリカレント教育（聴講・座談会）を取り入れ、実習のありかたなど意見交換を実施した。	【理学療法学科】 ・ 2026年度2年次臨床実習（見学実習）、3年次臨床実習（評価実習）の振り返りをグループで実施し、まとめを作成する予定である。 ・実習の振り返りを行い、次年度の実習に向けた課題について、明確にする。 【作業療法学科】 ・報告会・OSCEの効果検証と分析の徹底：MTDLプレジュメによる事例報告会およびOSCEの実施後の振り返りアンケートについて、結果の定量的・定性的な分析を徹底し、学生の「作業療法士としての今後の課題明確化」に繋がったかどうかの効果検証を行う。 ・報告・討論手法の改善と行動目標の設定支援：次年度の事例報告会及びグループディスカッションにおいて、学生が実習での成功・失敗体験を深く省察し、 卒業後を見据えた具体的な行動目標を設定できるよう、発表・討論の方法や教員のファシリテーション技術を改善する。

	留年・退学者防止		4	【理学療法学科】 ・前期強化組として1年生13名、2年生15名、3年生6名を選出し、サポートを行った。また、新たな取り組みとして、①自己管理手帳の作成と活用②全学年で空き時間に主要科目の補講を実施した。 ・1年生(29期生)の前期再試験は、平均1.2であり、昨年度(28期生)1.5に対して減少。2年生(28期生)の前期再試験は、平均0.57であり、昨年度(27期生)1.1に比べると半減。3年生(27期生)の前期再試験は、平均1.1であり、昨年度(25期生)1.4に比べ微減。 ・再試不合格者は1年生6名(昨年度6名)、2年生5名(昨年度3名)であったが、うち2名は長期欠席と退学予定により再試験を未受験のため、実質3名となり同数、3年生4名(昨年度9名)で半減であった。 ・全学年で前期再試験不合格者に対するフォローを夏季休業中から開始している。 【作業療法学科】 ・前期強化組は1年7名、2年6名、3年6名を選出し、サポートを行った。 ・前期での総合点による偏差値は、1年6名平均40.8、(再試験数平均:1.14)、2年6名平均38.45(再試験数平均:2.5)、3年7名平均40.1(再試験数平均:1)であった。強化組で総合点偏差値35以下の者は、1年2名、2年2名、3年2名であった。どの学年も前年度より総合点での偏差値35以下の学生が多い結果となった。個別に合わせ課題調整をしているが、1つの科目点数をあげることで精一杯で、他の科目へむずび付けて勉強することは困難であった。 ・再試験不合格者1年1名に対しては夏休み期間から担任を中心に対応を進めている。	【理学療法学科】 ・前期再試験不合格者に対する強化組フォローを行うと同時に、再試験数が多かった学生に対する支援を丁寧に実施する。 ・①自己管理手帳の活用②補講は後期も引き続き実施する。 ・学生のサポート状況について、毎週の学科会議で共有、サポート内容を吟味し、担当教員の変更を含めて検討する。また、学生の個別面談内容や支援記録をGaroonにて共有する。 【作業療法学科】 ・低減策の効果検証と改善: 学業不振学生(強化組)対策の効果を定量的・定性的に検証し、その結果に基づき、対策の具体的な改善(プログラムの内容、対象者の選定基準など)を行う。 ・情報共有体制の強化とアクションプランの明確化: 学生の個別面談結果や支援記録をGaroonで教職員がアクセス可能な共通フォーマットで一元管理する体制を強化する。学科会議においては、単なる情報共有に留まらず、留年・退学リスク学生への対応策について具体的なアクションプランの決定を目的とした会議運営に改善する。
			4	・2026年度前期末時点での退学率はPT3/313名 0.95%(2025年度末3.8%)、OT0/153名 0%(2025年度末5.5%)と、両学科共に退学者は昨年度末に比しては激減している。	・成績不良による退学や留年の可能性がある学生の早期発見、早期フォローを行い、退学率・留年率の年度数値目標4%以内を目指す。 ・留年・退学事例の検証: 留年・退学に至った事例について、学科だけでなく学校全体で情報共有し、発生要因と予防策を検討する。
	卒業生	卒業生の社会的活躍や評価を把握しているか。	4	・各関連学会、学会誌等で卒業生の動向を把握し、学校HP・入学案内やInstagram、学校説明会等広報において紹介した。 ・本校卒業生が制作に携わった映画『時には懺悔を』のトークイベント付き特別試写会を、岩崎学園主催で相鉄ムービルにて開催。在校生、姉妹校の学生、卒業生、医療・福祉関係者、企業関係者など約200名が参加した。医療職を目指す学生にとって、映画を通じて「命」「家族」「障がいのある子どもたちとの向き合い方」を考える貴重な学びの機会となった。 ・現役理学・作業療法士の卒業生に各種講演やアドバイザー、学内実習などのOSCE場面で模擬患者役や評価者役を依頼した。 ・各専門分野の授業において、当該分野で活躍している卒業生をゲストスピーカーとして招き、在校生が将来像を具体化し目標設定の道標となるよう依頼した。	・PT・OTの職域を広げ国内外で活躍している卒業生を把握し、PT・OTを目指す高校生に夢を与える一助とする。

5. 学生支援

担当	評価項目		令和8年前期評価	2026(令和8年)年度前期達成状況	2026(令和8年)年度後期に取り組むべき課題等
杉山	社会性	・挨拶や服装、遅刻など基本的な生活習慣の確立、社会性・公共性を育む指導・支援ができたか。 ・様々な教育活動において、社会人・医療人としての精神の育成に向けた支援ができたか。 ・学習状況実態調査で学生全体の生活習慣や学習環境を把握できたか。 ・実習で指摘された社会性(情意面)についてまとめ、その結果を支援に生かすことができたか。	3	・入学生に対し、入学時オリエンテーションや初年次教育にて社会人・医療人としての資質の形成を支援した。 ・担任面談や授業等で担任や教科担当からの指導を行った。 ・1・2年生については、ASKPlusの結果を分析し、学生の心理状況、専門職就業に向けたモチベーション、学習習慣等の把握を行った。 ・学内生活、実習にて社会性低下の問題が認められる学生が散見された。	・担任面談や授業等で担任・教科担当からの指導を行う。 ・病院・地域での実習で、社会性を含めた情意面について、学生個々に明確となった課題への取り組みを担任や強化組担当教員が支援する。 ・「ASKPlus」の企画、実施を行う。その結果分析から、学生の心理状況、専門職就業に向けたモチベーション、学習習慣等の把握を行い、面談等の指導に生かす。
内山	行事	・学園祭などの活動において学生が主体的に活動し、リーダーシップやコミュニケーション能力などの育成に向けた支援ができたか。 ・学校行事の充実に向けた支援ができたか。また、参加率が90%以上に到達したか。	4	・4/2に健康診断を実施した。 ・岩崎学園合同入学式は4/6にパシフィコ横浜にて開催され、リハ校は124名の入学生を迎えた。各校サークル代表が式後の会場にてクラブサークルの勧誘を行った。学校生活の説明も丁寧に実施し入学生の不安を解消することができた。 ・夏の専門学校体育大会では、バスケットボールサークルが参加し、男子は地方予選準優勝、女子は地方予選で優勝し、全国大会(会場:大阪)に出場した。 ・2026年5月より学園祭実行委員を中心に、10/24(土)ー25日(日)に行われる学園祭の準備を進めている。	・10/24(土)ー25(日)に学園祭では、学生と教員とのコミュニケーションをとりながら、安全に、かつ、学生が主体的に楽しめるよう支援する。保育校とのコラボ企画など他校の学生とも交流できるように実施する。 ・2027/3/12(金)に本校および岩崎学園卒業式を開催予定である。岩崎学園本部ならびに教職員担当者を中心に準備を進めていく。
		・効率よく行事が運営できるよう、全体の年間予定表・各行事のマニュアルの再調整を行い、業務の連携及び効率化を図れたか。	4	・行事担当のスタッフがどの行事にあたっても対応できるよう、業務役割を全体で振り分けるようにした。 ・情報共有の為、頻繁に打合せを実施した。	・岩崎学園全体でのイベントについては、学内担当者が本部の流れや意向を把握し、学生全体が楽しめるようなイベント運営に努める。 ・各行事での新企画など、情報を収集し効率よく準備する。 ・各担当が業務内容を把握し、情報共有を円滑に図りながら、随時進めていく。
田中	個別指導	・学生の情報交換を定期的に行い、心身の健康問題への適切な対応ができたか。	4	・定期的な面談を原則対面で実施している。各学科会議でも情報を共有し対応策を検討する中で、必要に応じてスクールカウンセラー・岩崎職員(警察OB)の利用を促すなど心身の健康問題等への適切な対応を行った。 ・週1回の学科会議にて早期発見・早期対応を心掛け、問題発生時には、適宜学生に関する情報交換を行っている。	・継続
		・学生の面接・面談の記録があるか。	4	・3年生以上は個別学生カルテにて、1・2年生は各クラスごとに、学生のプロフィール・緊急連絡先及び面接の記録、臨床実習の記録を保管している。 ・GaroonやGoogleチャットを活用して、成績や出欠状況、面談の記録などを管理し、教員間で情報を共有している。	・継続
		・就職・進路について相談できる担当者がいるか。	4	・担任、国試担当教員が主に対応にあたった。 ・岩崎学園ポータルサイト(ポータル)に就職検索や就職における履歴書添削(AI活用)・面接練習などのプラットフォームがあり、学生は活用した。	・継続

瀬古	健康管理・防犯	・学生の健康診断を定期的に行っているか。	4	・年1回実施(4/2に実施済)	・継続
		・犯罪・薬物・消費トラブル等の指導を行っているか。	4	・新入生対象に薬物乱用防止教室を実施した(5/11実施) ・随時、薬物乱用・詐欺・犯罪(闇バイト)・消費者トラブル等への注意喚起やポスター掲示を行った。	・随時、薬物乱用・詐欺・犯罪(闇バイト)・消費者トラブル等への注意喚起やポスター掲示を行い継続的に啓発を促す。
	就職支援	・就職指導支援体制整備 ・就職内定率目標(年内60%・年度内100%)の達成 ・学生の就職希望データベース化 ・既卒者対象求人情報データベース化	4	・学生向けの就職ガイダンスを3月(2回)に続き6月に1回実施。 ・小論文対策講座(動画)を配信。 ・就職活動支援(履歴書・小論文添削、面接練習)を国試担当教員が実施。 ・就職の早期化に対応し、合同就職説明会を6/6に実施。3クール実施し、86(+3)施設が参加。学生は1名につき6施設で説明を受けた。 ・求人情報はiポータルで配信するとともに、教員からSlackを利用し学生に共有。 ・学生は学外(臨床実習中)でもiポータルから求人情報を閲覧可能。また、iポータルから就職活動進捗報告を行っている。就職試験を受験した場合はその内容も登録するため次年度以降の学生に有効な情報となっている。 ・2025年度の実績は以下の通り。 年内内定率(2025/12/末) ():2024年度内定率 PT:72.5% OT:72.1% 全体:72.4% (PT:65.0% OT:60.0% 全体:63.4%) 年度内内定率(2026/3/31付) ():2024年度内定率 PT:100% OT:100% 全体:100% (PT:98.7% OT:97.1% 全体:98.2%)	・実習を終了した10/3以降学生の就職活動が活発化するため、国試担当教員が就職活動支援を国試対策と並行して実施する。 ・学生個人の国家試験対策状況を鑑みながら内定率年内70%、年度内100%を目指す。 ・現3年生に対し、2027年3月に2回の就職ガイダンスを計画する。
	災害対策	・災害対策マニュアルを整備し、災害発生時の指導を行っているか。 ・万が一に備え、保険加入しているか。	4	・本校の災害時対応マニュアルを更新し、教職員に周知した。 ・通学時、学内外の実習や活動においての賠償責任保険に加入している。	・学生の避難訓練を11/20に実施予定。教職員向けの防災訓練を2027年3月に実施予定。 ・学生、教職員とも災害時の連絡手段、安否確認フォームについて、QRコードを学生生活の手引きに掲載、周知。避難訓練時に学生・教職員は入力の練習を実施予定。
	経済援助・活動援助	・奨学金等の経済的支援があるか。 ・学費減免、学費分納制度があるか。	4	・日本学生支援機構奨学金に対応、岩崎学園奨学金を整備。 ・神奈川県理学療法士及び作業療法士 修学資金の申込方法や施設による奨学金制度を紹介。 ・岩崎学園奨学生制度(給付型奨学金)を設けている。 ・高等教育修学支援新制度(2020年～)対象機関である。今年度より対象が拡充され多子世帯支援が含まれているため対応した。 ・入学時および定期試験にて特待生選抜を行い、学費等の減免を行っている。また、岩崎学園Gems(内部特待生)選抜も実施し、学費の減免を図っている。 ・岩崎学園学費分割納入制度を設けている。	・次年度の岩崎学園Gems(内部特待生)選抜が行われるため、学園本部より案内が届き次第、学生に周知する。
		・保護者・保証人等への情報提供は行われているか。	4	・新入生の保護者・保証人等をMyPaに登録した。 ・2～4年生の保護者・保証人等へ後期成績、出欠状況等をMyPaにて配信。 ・学校・学園からのお知らせ各種を保護者・保証人等へMyPaを利用し、随時配信した。	・2026年度前期の成績、出欠状況がととのったため、10/1にMyPaで配信した。 ・学園祭開催のお知らせをMyPaで配信する。
		・同窓会はあるか。 ・卒業生へ学校情報を提供しているか。	4	・学園の取り組みとして、2024年度卒業生からLINEに登録してもらい、学園・学校情報を提供するシステムを構築している。	・学園祭時に卒業生の交流会を計画中。 ・2027年3月に同窓会主催の勉強会を開催予定。
		・クラブ活動を支援しているか。	4	・フットサル・ボランティア・バスケットボール・野球・陶芸・バレーボール・バドミントン・テニス・チアリーディング等の活動に顧問をあて、補助金で支援している。 ・バスケットボールサークル(女)が8月末に全国大会(大阪)に出場。参加費の一部を岩崎学園が支援、教員1名が付き添いをした。また、体育大会の参加費等を学校で支援した。	・継続

6. 教育環境					
担当	評価項目	令和8年前期評価	2026(令和8年)年度前期達成状況	2026(令和8年)年度後期に取り組むべき課題等	
武田	教室	・教室の数・広さ、実習室の数・広さは教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4	・実習室の数、広さについては養成校設置基準に準拠している。	・継続
		・教室以外に休憩スペースが適切に置かれているか。 ・食堂や運動施設など教育環境を補完する施設が整備されているか。	4	・地下一階に学生ホール完備。各フロアに休憩スペース完備。 ・各ホームルーム教室があるフロアならびに6階のエレベータホールに学習環境を整備。 ・体育館、箱根研修所、岩崎ミュージアム(コンサートホール)所有。	・継続
		校舎全体およびAV機器等の経年劣化に随時対応する。	4	・校舎、設備は定期点検し、必要に応じて修理・刷新を実施。 ・各教室の扉の塗装が剥けているため、補修を実施。	・継続
		・自宅学習を奨励するための設備を提供しているか。	4	・全学生にノートPCを貸与し、導入時に最新の環境を提供している。 ・スマートフォンなどを利用した国家試験対策教材「宅ドリル便」(国家試験対策eラーニング)を使用。 ・解剖生理学デジタル教材としてVisible Body(3D人体解剖学習リソース)を使用。 ・スタログ(LMS)及びメディカルオンライン(医学文献の検索・閲覧)を導入し、オンライン学習の円滑な実施環境を整えている。	・継続
武田	図書	・図書室利用者数の増加ができたか。 ・蔵書を増加したか。 ・図書室を整理し使用しやすい環境設定ができたか。	4	・図書室活用を図るために、新規蔵書について周知を行い、図書室活用を促した。 ・図書室保管蔵書の整理、在庫確認を実施した。	・継続
		・Web利用者数は増加したか。 ・メディカルオンラインの利用者数は増加したか。また、適正に利用できたか。	4	・メディカルオンラインの利用については、概ね、適正に利用された。ダウンロードに関する注意喚起を継続した。 ・メディカルオンラインのパスワードは年度ごとの更新に変更した。 ・上半期(2026/4～8)は 512件/月の利用件数であった。	・メディカルオンラインの利用については、引き続き適正利用と利用者増加を促す。 ・他の論文検索システムの検討を継続する。
	設備・	・指定規則に従う機材、実習室などは整備されているか。	4	・「養成校備品・設備施設基準」に基づいて保有点検をした。各実習室の機器、備品の整備を実施した。	・継続

	・備品	・各種マニュアル作り、破損・危険箇所への安全対策や備品の修理・新規購入が迅速に行われたか。	4	・教務室内、倉庫内を中心に物品の点検・整理を実施、不足品、欠品については、修理・補充を行った。	・備品の不足、破損に迅速に対応する。経年劣化した機材を更新していく。 ・来年度はFPの解析PC・ソフトを更新予定。
--	-----	---	---	---	--

7. 学生募集					
担当	評価項目		令和8年 前期評価	2026（令和8年）年度前期達成状況	2026（令和8年）年度後期に取り組むべき課題等
渡邊	学生募集	・学生募集計画があるか。また成果は十分か。	4	・ 進路決定・入試の早期化に対応した学生募集計画を策定し、実行している。 ・ 今年度より、総合型選抜内定者が指定校推薦出願へ移行できる制度を導入し、受験生のニーズに対応した入試制度を実現した。	・ 昨年度同様両学科とも定員確保を目指す ・10月から、学校推薦型入試が本格的に開始される。公募型推薦入試は計5回開催予定（V期は予備日）。 ・一般選抜入試は12月以降4回開催予定（IV期は予備日）
		・入学案内書には以下の内容が明示されているか。 育成人材像、目指す資格・検定試験、学費・教材費、入学者選抜方法	4	・「入学案内書」「学生募集要項」に明示。	・継続
		・入学に関する問い合わせに適切に対応できる体制ができているか。	4	・入学情報センターにて対応。 LINE、フリーアクセス0800-800-4508 メール（infoycr@iwasaki.ac.jp） ・希望に応じて個別相談実施。 ・放課後オープンキャンパスや入学に関する個別相談会を拡充した。 ・相談しやすいツールとしてLINEによる個別相談も継続実施している。	・継続
		・学校説明会等において入学情報を提供できているか。	4	・学校説明会を開催し、学校紹介・各学科紹介・入試説明・学費・奨学金説明、校舎案内・授業見学を実施。 ・個別相談では、受験可能な推薦制度、特待生制度等、個々の事情に合わせた情報提供を行っている。 ・ 5/25～27に高校教職員を対象とした「進路指導に役立つ授業見学会」を開催。20名（14校）が参加。	・継続 ・高校生や保護者、高校教職員のニーズに合わせたイベントを実施し、学生募集につなげる。
		・体験授業等で入学後の自分をイメージできるイベントを開催しているか。	4	・在校生によるキャンパスライフ紹介を取り入れ、入学後の学校生活を具体的にイメージできるイベント運営を行っている。 ・夏休みのオープンキャンパスでは、高3生に加え、進路検討の早期化を背景に、高1・2年生の参加も増加している。 ・PT・OTの仕事や学びの魅力をより身近に感じてもらえるよう、体験授業のプログラムを継続的に改良した。	・継続 ・ 職業理解を深めるため、病院が実施する見学会を継続して案内し、参加を促進する。
		・入学辞退者の授業料返還が適切に処理されているか。	4	・手続きについては「学生募集要項」記載。	・継続
		・入学予定者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションは行われているか。	4	・4月に新入生向けオリエンテーションを開催	・継続 ・2027年度生のプレップゼミについては、11月から毎月1回開催予定

8. 社会貢献					
担当	評価項目		令和8年 前期評価	2026（令和8年）年度前期達成状況	2026（令和8年）年度後期に取り組むべき課題等
田中	地域貢献	・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	4	・職能団体の技能研修会等を適宜開催した。 ・近隣の高校や教育機関からの依頼に応じ、専門職による出張授業（キャリア教育、体験授業）を実施した。	・継続
		・学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか。	4	・安全確保と感染対策を回りながら、学校休業日に教室を貸し出している。 ・臨床実習指導者講習会（県士会）やその他研修会、地域利用などにも施設管理部を通し、貸し出している。	・継続
		・ボランティアなどの社会活動に参加しているか。	4	4月～9月末までに学生が参加した各種ボランティア活動は以下の通り。 延べ112名が参加した ・5/9 ラポール上大岡エンジョイススポーツ遊びのボランティア；1名 ・5/10 リノアリズム教室のボランティア；2名 ・5/14・5/16ワールドトライアスロン横浜大会のボランティア；12名 ・5/31 ラポール上大岡バスケットボール教室のボランティア；3名 ・6/13 ラポール上大岡エンジョイススポーツ遊びのボランティア；2名 ・6/ 27 新百合ヶ丘介護老人保健施設つくしの里カフェイベントのボランティア；2名 ・7/11 ラポール上大岡エンジョイススポーツ遊びのボランティア；1名 ・7/11・7/12 横浜国際ブルーインクルーシブ水泳大会のボランティア；22名 ・7/19 新百合ヶ丘介護老人保健施設つくしの里納涼会のボランティア；3名 ・7/25 ラポール上大岡で行われたバスケットボール教室のボランティア；2名 ・8/1 AYAインクルーシブ運動フェスティバルのボランティア；9名 ・8/8 ラポール上大岡エンジョイススポーツ遊びのボランティア；1名 ・8/27 AYA主催アイスショー公開リハーサル鑑賞会のボランティア；3名 ・9/12 ラポール上大岡エンジョイススポーツ遊びのボランティア；2名 ・9/18・9/19・9/20 ジャパンパラ水泳大会のボランティア；20名 ・9/21 神奈川県士会主催 車いすバスケ大会FUN部プレイヤーズゲーム大会のボランティア；4名 ・9/27 ラポール オープンデイのボランティア；4名 ・9/27 八景島トライアスロンのボランティア；19名	・各種イベントをGメールやSlackにて案内し、学生の主体的な参加を支援する。また、参加学生にはRリーグのポイント付与を行う。
		・地域に対する公開講座などを主催しているか。	4	・ つなぐカフェ；4回実施。のべ参加者115名、学生60名 ・ 体力測定会；2回実施。のべ参加者56名、学生46名 ・ 体力測定会において、神奈川トヨタと連携した企画（ベテランドライバーシミュレータ体験/サポートグッズ紹介・C*walk 試乗体験・福祉車両展示）を開催し、地域在住高齢者に好評であった。	・ つなぐカフェを10/25、11/8、12/13、2027.1/10、2/7に、3/13にケアプラザにて出張つなぐカフェ開催予定。 ・ 体力測定会を10/3、2027.1/9に開催予定。

9. 法令等の遵守					
担当	評価項目		令和8年 前期評価	2026（令和8年）年度前期達成状況	2026（令和8年）年度後期に取り組むべき課題等
瀬古	法令遵守	・法令や専修学校設置基準を遵守しているか。	4	・新任教員1名、新非常勤講師1名、専任教員講習会修了者1名の県への申請書類一式を総務に提出し、県への申請を行った。 ・臨床実習施設について変更や新規施設承認について必要書類を総務に提出。県への申請を依頼。	・臨床実習施設の変更や新規施設承認については後期に1回、総務を通し、県へ申請する。
		・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	4	・個人情報保護規程を文書化、「臨床実習の手引き」「学生募集要項」に記載している。 ・デジタルの個人資料はパスワードをかけ管理している。	・継続
		・自己点検・自己評価を定期的に実施し、問題点の改善につとめているか。	4	・理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインの一部改正による自己点検・自己評価を前期中実施。ホームページ上で公開している。	・継続
		・理学療法教育施設評価（第三者評価）受審対策に向けた情報収集を行えたか。 ・世界作業療法連名（WFOT）の「作業療法士教育の最低基準」の条件に満たしており、認定校として登録させているか。	4	・リハビリテーション教育評価機構の受審年度であり、必要書類等をそろえ、6月末に機構に提出した。 ・実地調査に備え、当日提出する追加資料を作成した。	・実地調査について理学療法学科10/22、作業療法学科11/20に実施予定である。 ・受審後、認定審議を経て、4月に結果通知が届く予定である。
		・自己評価結果を公開しているか。	4	・「自己評価」ならびに「自己点検、自己評価」の結果はホームページで公開している。	・継続